

平成23年度 第1回公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成23年11月10日（木） 午後3時より午後4時35分

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 19名（委員7名、当院8名、事務局4名）

（委員） 松木会長、小林委員、小川委員、堂端委員、坂井委員、藤本委員、荒牧委員

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、池野副院長、永島経営本部長、出村経営管理部次長、寺尾管理課長、北川診療支援課長、勢田地域医療支援副センター長

（事務局）丸岡経営企画課長、土倉課長補佐、羽石専門員、宮本主事

【内容】

1 開会のあいさつ

＜川口病院事業管理者＞

本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

病院事業管理者を5年間させていただいておりますが、平成17年度に経営状況が落ち込んだ際に、経営の建て直しに関わらせていただいたことが始まりでございます。

現在の経営状況は、職員一同に頑張っていたいただいた結果、何とか黒字に回復いたしました。

公立能登総合病院は、そもそも七尾市と中能登町に住む方々の意思で作られた、地域住民のための病院であり、この経営状況の改善にいたしましても、地域の方々が病院を支えてくださったおかげであると考えております。

本日は、地域の代表として来ていただいた皆様よりご意見を賜り、今後の病院経営について考えていこうと思っておりますので、忌憚のないご意見をよろしく願います。

2 委員及び病院職員の紹介

松木一郎（七尾市地区社会福祉協議会連合会会長）

小林義弘（七尾市町会連合会会長）

小川兵作（七尾市公民館連絡協議会副会長）

堂端 浩（七尾市学校保健会副会長）

坂井節子（七尾市各種女性連絡協議会会長）

布 孝明（社団法人七尾青年会議所理事長）

木村武司（中能登町商工会会長）

星場與一（中能登町老人クラブ連合会会長）

藤本一義（中能登町区長会会長）

清水洋子（中能登町ボランティア連絡協議会副会長）

佐原博之（さはらファミリークリニック院長）

荒牧千佳（西湊保育園看護師）

※病院職員は、上記のとおり

3 会長、副会長の選出

病院協議会第4条の規定により、松木委員を会長に、木村委員を副会長に選任

＜松木会長＞

ただいま、皆さまに推薦をいただき、会長を引き受させていただきます松木と申します。

この協議会は、皆さまのご意見をもとに、公立能登総合病院の病院運営をより良

いものにしていくために開催されるものでありますので、今日は忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

4 議件

(1) 公立能登総合病院の経営状況について

1. 主な活動の紹介

- ・3月11日に発生した東日本大震災においては、当日の夕方にはDMATの派遣を行い、その後、被ばくスクリーニング、医療救護班、心のケアなどの派遣をしました。
- ・JAから救急車を贈呈していただきました。内装も非常に充実しており、今後は、救急医が直接現場に向かうことができる、ドクターズカーとしての取り組みを視野に入れております。
- ・在宅支援部と地域医療連携室を統合し、新たに地域医療支援センターを開所しました。情報の共有がスムーズにできるので、きめ細やかな対応ができるようになりました。今後は、地域医療支援病院の承認に取り組んでいく予定です。
- ・救急外来入口で、職員を対象としたあいさつ運動を行っております。その効果もあり、最近、公立能登総合病院は明るい雰囲気になってきているとの評価をいただいております。
- ・看護師臨床研修制度では、平成22年度は12名の研修生全員が当院に残ることになり、看護師確保の効果がでてきております。また、金沢で行われた看護師募集のイベントにも積極的に参加するなど、県内から広く看護師を募集しております。
- ・院内の各部署が年度目標などを掲げて発表する、BSC発表大会を開催しました。今年度で5回目となり、平日の夕方に大勢の職員が集まり活発に意見を出し合いました。
- ・自衛消防訓練大会では、男子隊と女子隊が参加し、女子隊が見事に優勝しました。今後は、訓練等に積極的に取り組み、非常時の対応を強化していきたいと考えております。
- ・県内の自治体病院と経営について意見を出し合う、自治体病院経営研究会を開催しました。各病院の良いところを知り、今後の病院経営に生かしていきたいと考えております。
- ・10月に病院フェスタを開催しました。高松病院の北村立先生の講演、金沢大学の学生によるアカペラコンサート、ホスピタルクラウンとして活躍している大棟耕介氏によるパフォーマンスなどをしていただきました。また、各種イベントや相談コーナーなどを設け、地域住民の皆さまに楽しんでいただきました。

2. 経営状況について

- ・診療収益から見た上半期の状況は、前年と比較しますと1億4,845万円の増収であります。
年間の診療収益の比較では、平成17年度は非常に悪かったのですが、そこから少しずつ収益は伸び現在はかなりいい傾向になっております。平成22年度は、診療収益の対前年度比で5億1,100万円増収となり、結果として約1億4,000万円の黒字を計上できました。
今年度は、前年度と同じような経営状況ならば、約3億円の黒字が見込まれます。
- ・医療とは、結果を保証するサービスではありません。患者さんと寄り添い、苦痛に挑戦していくプロセスを共有していくサービスであるということを職員一同再確認しながら、医療に取り組んでいきたいと思っております。
- ・目指すべきゴールは、経営を安定させ、柔軟な医療を今後展開していくことであります。「全員経営・全員医療」で取り組んでいきたいと思っております。

(2) 公立能登総合病院改革プランの進捗状況について

1. 公立能登総合病院改革プランの概要

多くの自治体病院が経営の悪化と医師不足に直面し、公立病院がその地域で担う医療の提供に支障が生じ始めてしまいました。

当院においても平成12年の新病院建設後、減価償却費や企業債償還金の増加、度重なる診療報酬のマイナス改定、医師不足による診療収入の低下等により、経営状況が著しく悪化いたしました。

平成17年度より、改革担当部署として経営企画室を設置し、平成18年度から3年間を集中的に経営改革に取り組む期間としました。その計画をまとめたものが、経営改革シナリオであります。そのシナリオに沿い、具体的取組を推進してきた結果、平成20年度に経常収支黒字を達成することができました。

平成21年度からは、総務省が全国の自治体病院に策定を義務付けた「公立病院改革プラン」として、「第2次経営改革のシナリオ」を策定し、現在はこの改革プランに基づいて経営改革に取り組んでおります。

結果としては、平成21年度は3,300万円の黒字、平成22年度は1億4,000万円の黒字を計上し、状況は良くなりつつあります。

今年度は、上半期の状況から見れば、昨年度を上回る黒字を計上できるのではないかと予想されます。

2. 経営指標に係る数値目標の達成状況

1. 財務内容の改善に関するもの

経常収支比率	(H22年度目標 100.0%)	(実績 101.7%)
医業収支比率	(H22年度目標 97.9%)	(実績 98.4%)
職員給与費対医業収益比率	(H22年度目標 54.8%)	(実績 55.4%)
材料費対医業収益比率	(H22年度目標 21.0%)	(実績 21.6%)
病床利用率(一般)	(H22年度目標 84.2%)	(実績 89.0%)
病床利用率(精神)	(H22年度目標 80.0%)	(実績 79.1%)
患者一人当たり診療収入(一般入院)	(H22年度目標 42,717円)	(実績 43,177円)
患者一人当たり診療収入(一般外来)	(H22年度目標 11,220円)	(実績 11,228円)
患者一人当たり診療収入(精神入院)	(H22年度目標 14,805円)	(実績 14,813円)
患者一人当たり診療収入(精神外来)	(H22年度目標 6,426円)	(実績 6,037円)

2. 医療機能確保に関するもの

一日平均 入院患者数(一般)	(H22年度目標 278.0人)	(実績 293.6人)
一日平均 入院患者数(精神)	(H22年度目標 80.0人)	(実績 79.1人)
一日平均 外来患者数(一般)	(H22年度目標 810.0人)	(実績 835.7人)
一日平均 外来患者数(精神)	(H22年度目標 143.0人)	(実績 142.1人)
臨床研修医数	(H22年度目標 6人)	(実績 6人)

評価の客観性確保のため、本協議会での点検、評価をよろしくお願いいたします。

<小川委員>

医療機能確保の目標数値に関して、平成18年度は3万9,000円であった一人当たり入院収入（一般）が、平成22年度には4万3,000円に増えたのは良いことですが、一般の外来患者が948人から835人に減っているのに収入が増えているのはどういうことなのでしょう。

- 当院では、平成12年度には一日平均外来患者数が1,200人近くいましたが、医師数がそれに伴って増えない状況でした。このままでは、一人の患者さんにかかる時間が短くなり、良い医療ができない状況でした。そこで、平成17年度以降から外来患者を減らす取り組みを行いました。外来患者を減らすと、収入が減るのではとの心配がありますが、実際は減らした分だけ患者さんを丁寧に診察することができるので、一人当たりの外来収入（一般）が上がり、結果的に収入が増えるということになります。

<小川委員>

平成18年度よりも一人当たり入院収入（一般）が4,000円ほど増えているのですが、患者にとってはマイナスではなく、丁寧に診察してもらえて喜んでいいということなのでしょうか。

- 外来患者が減ると、医師は入院患者の診療にも力を入れることができるようになります。このようなことから、患者さんに対して丁寧な医療を提供することができるようになりますので、患者さんにも十分なメリットはあると考えております。

<坂井委員>

未収金について、入院時に保証人を記入しているのに、どうして集金できないのでしょうか。4,000万円近く未収金がありますが、どのように回収していくのでしょうか。

- 現状、未収金は一度発生すると回収が難しくなります。そのため、高額療養費制度を利用してもらうなど、未収金の発生防止に力を入れています。
もし未収金が発生した場合、電話での催告や誓約書の署名、分割での支払いなどの対応を取っています。それでも支払いが無い場合は、督促状を送るなどの措置を取っています。
未収金に対しては、回収業者に回収を頼む病院もありますが、当院では、地域の方々のための病院でありますので、そこまでは行っておりません。

<松木会長>

その場合、公立能登総合病院での再入院などはあり得るのでしょうか。

- 前回お金を払っていないからといって、診療を断るということはありません。かつては、自宅まで訪問して集金をしていましたが、家庭によっては本当に払えないと実感できる場合もあり、非常に難しい問題だと感じています。

<小林委員>

ジェネリック医薬品について、薬品品目数割合が6%となっていますが、一般的には何%なのでしょう。

- 多い病院では20%前後の病院もあり、当院は低い方です。

<小林委員>

6%というのは、病院経営にとってどうなのでしょう。

- ジェネリック医薬品は数多くあるので、安全性、供給の安定性を重視しており、当院では、金沢医療センターが採用している品目に注目して採用しております。
薬品によっては元の価格が安いものもありますので、全てをジェネリック薬品に変えると儲かるということもありません。厚生労働省は、ジェネリック医薬品の使用を促進していく方針ではありますが、安全性、供給の安定性、経営のメリットを考えながら、今後も検討していく予定です。
院内の品目数に対する割合が6%であり、院外処方では、ほとんどの薬品でジェネリック医薬品を処方することができます。

<松木会長>

薬局でジェネリック医薬品を勧めるということはあるのでしょうか。

→ あります。当院は院外処方箋を出す際、ジェネリック医薬品でも構わない場合は、院外処方箋にそのことを明記しております。

<小川委員>

患者がジェネリック医薬品を選択することはできるのでしょうか。

→ 院外処方箋にジェネリック医薬品を処方しても構わないと明記してあり、該当するジェネリック医薬品が薬局にあれば、患者さんの求めに応じて処方することができます。

<小川委員>

その場合は、調剤薬局の収益は公立能登総合病院に入ってくるのでしょうか。

→ 調剤薬局での収益は、薬局のみの収益となります。当院は院内処方箋料のみが収益となります。

<松木会長>

平成22年度は、概ね改革プランに明記されている目標値を達成しておりますので、今年度以降についても、引き続き現状の改革プランを職員一丸となって取り組んでいただきたいと思います。

(3) 出前講座の開催状況について

平成19年度（9月から開始）	19回	515人
平成20年度	21回	900人
平成21年度	23回	920人
平成22年度	26回	960人
平成23年度（10月までの実施状況）	18回	568人

今年度からは看護師も講師として参加しております。申込みがあれば、医師の都合に合わせて開催していきたいと考えております。最近の傾向としては、認知症に関する講演の依頼が増加しております。

<小林委員>

出前講座の情報を知らなかったもので、これから利用していきたいと思います。

<堂端委員>

私も出前講座を知りませんでした。学校主体での講演も検討していきたいので、もっと情報を発信していただきたいです。

→ 七尾市の教育委員会にもご案内をさせていただいておりますので、機会があればぜひご利用ください。

<坂井委員>

七尾市は広報誌などで各種イベントなどを案内していますが、公立能登総合病院にはそういうものはありますか。

<松木会長>

公立能登総合病院では陽だまりを発行しておりますので、一度確認してみてください。

<坂井委員>

来年は認知症について申込みたいと思うので、ぜひお願いします。

(4) 地域医療支援センターについて

1. 構成員

センター長は橋本副院長が兼務しております。

地域連携係3名、訪問看護係4名、医療福祉相談係4名、臨時事務職員1名の計12名で構成されております。

2. 役割

地域医療連携係は、主に外部の医療機関、施設との連絡調整を行っています。今年度は特に、2人主治医制の推進に力を入れています。2人主治医制によって外来患者数が減り、医師の丁寧な診療及び待ち時間の短縮が期待できます。訪問看護係は、訪問介護、在宅医療、へき地巡回診療に関することなどを担っています。

医療福祉相談係は、患者さんの経済的問題や介護に関する相談、転院相談、各種制度の紹介等に関することを担っています。

居宅介護支援事業所は、ケアプラン作成、介護認定申請の代行業務、介護認定訪問調査等を担っています。

3. 地域医療センターの目指すところ

地域の医療機関等との関係をより緊密にし、さらに強力な地域連携を目指していきます。

地域において、初期治療から急性期、回復期や機能維持期までの切れ目ない治療・療養を行っていくことを目指します。

地域医療支援病院に承認されることを目指します。

<小川委員>

地域医療支援病院は、能登にはあるのでしょうか。

→ 県内で地域医療支援病院に承認されているのは、金沢医療センターのみであります。

<小川委員>

地域医療支援病院に承認される条件は何でしょうか。

→ 紹介率40%、逆紹介率60%で承認されます。当院の現状は、紹介率20%前後、逆紹介率25%前後です。

<松木会長>

2階総合受付前に、地域医療連携についてのパンフレットがあるので、参考にしてみてもいかがでしょうか。

<坂井委員>

公立能登総合病院で親が入院していたのですが、3か月で出て行けと言われ、たらい回しにされたことがあります。現在でも、そういうことをしているのでしょうか。

→ 患者さんが急性期での医療が必要な場合は、半年でも一年でも入院してもらっています。ただし、急性期での医療の必要性がなくなり、慢性期でのケアのみとなりますと、こちらで他の受入れ施設を探し、そちらに移っていただくことになっております。

ただ患者さんに出て行けと言うのではなく、転院先をきちんと決めてから、移っていただいております。

<堂端委員>

私の場合は、3か月たったら次の転院先を紹介していただきました。

→ 当院は急性期病院ですので、ケアのみの患者さんにつきましては、こちらで探した施設に転院していただかないと、救急車の受入れもできなくなってしまいます。そのため、患者さんが入院したら、すぐに地域医療支援センターの職員が関わり、次の転院先をご家族に説明しております。その際に、3か月を目途に転院を考える

ことになると思いますが、ご家族には3か月で出て行けというように受け取られているのではないかと思います。

救急車を断ることはできませんので、ご理解いただきたいと思います。

<松木会長>

その他、全体的なご意見などはありますか。

<小川委員>

初めて参加させていただきました。あいさつ運動は非常に良い活動だと思いますので、ぜひこれからも取り組んでいって欲しいと思います。

また、看護師と医師の連携を今まで以上に密にし、患者のケアに取り組んでほしいと思います。

<藤本委員>

私が議会にいた頃は、公立能登総合病院についてもさまざまな話がありましたので、経営改善のために大変な努力をされてきたことは理解できます。これからも、理念を持って取り組んでいただきたいと思います。

能登の砦として、公立能登総合病院はどうしても必要だと思います。要望としては、経営が良くなってきていますが、総体的な医師不足の話を知ると、住民も不安になります。開業医もだんだん減り、増える見込みもありません。今後は医師確保も含め、能登の砦として病院運営に取り組んでいって欲しいと思います。

<小林委員>

今日、職員とすれ違ったときにあいさつをしてくれ、非常に気持ちがよくなりました。公立能登総合病院の雰囲気はだんだん良くなっていると感じますので、あいさつはぜひ続けて欲しいと思います。

<荒牧委員>

保育園の方から意見を聞いてきたので、ご紹介させていただきます。

- ・ 外来の待ち時間が長いので、待ち時間が表示されるシステムがあればいいと思います。
- ・ 駐車場が狭いのでこちらでも対応して欲しいと思います。
- ・ 看護師の笑顔が増え、病院の印象は良くなっていると感じます。

私事ですが、新聞記事でトリアージ訓練というのを見たのですが、どのようなものなのでしょうか。

→ トリアージ訓練とは、この周辺で大きな事故などがあった場合に、大量の負傷者を一度に受け入れることができるよう、患者の状態を4つに分類し、医療を行う訓練のことです。いつ災害が起こってもすぐに対応できるよう、毎年訓練しております。

<小林委員>

自主防災福祉ネットワークを立ち上げる際、防災訓練で人命救助などもするのですが、公立能登総合病院の医師に頼めば、出前講座のように来てもらえるのでしょうか。

<松木会長>

自主防災ネットワークに関する窓口は市役所であり、防災訓練などの際は、市役所をおして日本赤十字社に頼めば来ていただければと思います。また、AEDの講習などについては消防に頼めば来ていただけます。

5 その他

経営企画課長より、次回の開催予定について案内。

- ・次回は来年3月中旬を予定しております。詳細につきましては、後ほどご案内させていただきます。
- ・次回の案件につきましては、来年度の予算内容の説明及び第3次経営改革のシナリオについて説明させていただきます。

6 閉会あいさつ

<藤岡病院長>

本日は長時間にわたってご協議をしていただきましてありがとうございました。

また、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

当院は地域に開かれた病院として、今後も皆さまから貴重なご意見を頂戴し、一層地域の方々から信頼される病院を目指していきたいと考えております。

今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

(午後4時35分閉会)